



私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

人口減少がもたらす競争社会の変容

今年の高校3年生が該当する18歳人口は112万人とされています。現在の民間企業経営者層と学校の校長先生クラスの年代は日本の人口ピラミットの最大幅を形成する団塊の世代から見て10年程度後の世代になり出生数は150万人前後、そこから以降10年間で第2次ベビーブーム世代でその子たちの18歳人口は200万人を突破していたのです。

小・中・高での学力競争、総決算である大学受験、就職、会社での出世競争のいずれの場面でも、200万人が競争するのと112万人で競争するのではその激しさ、希望の通り難さは比較になりません。氷河期世代と言われる社会的不利な状況におかれて来た気の毒な世代は実は18歳人口が200万人超えの多産世代にあたるのです。

当社は創業45年目の警備会社ですが、縁あって書籍販売会社の事業譲渡を検討しています。商店街から個人経営の本屋さんが消え、それらを廃業に追いやった大規模書店が今ではネット販売業者に顧客を奪われ規模縮小から経営難となっています。譲渡事業の成長可能性を精査する段階で2023年の出生数が72万人前後と報告され唖然としました。

現高校3年生/112万人が受験シーズン本番を迎えた光景と昨年2023年に生まれた72万人が受験生になる18年後の光景は異次元の変容となりそうです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。毎年、これから3月の卒業式に向けて内定者が増えていくのが当社の特徴です。ご連絡をお待ち申し上げます。

松本 隆一郎